

万葉のまち 市辺

Ichinobe Machizukuri

第5号

平成 20 年 3 月

発行：市辺地区まちづくり協議会 / 東近江市市辺町 2 3 9 1 市辺公民館内 電話 0 7 4 8 - 2 2 - 0 2 0 3
I P 電話 0 5 0 - 5 8 0 1 - 0 2 0 3

文化講演会

私たちのまちが『万葉のまち』… な



万葉あかね会の皆さんによる詩歌の朗詠



渡邊守順先生の講演の様子

2月10日(日)午後1時から多数の皆さんのご参加をいただき文化講演会を開催いたしました。

当日は、万葉衣装を着けた東近江市文化団体連合会・万葉あかね会の皆さんによる「あかねさす紫野行標野行野守は見ずや君が袖振る」「紫野にほえる妹をにくくあらば人妻ゆえに我恋めやも」の相聞歌を中心に額田王(ぬかたのおおきみ)の詩歌を朗詠していただきました。終了後も衣装を着けたままで講演会にも参加いただき会場の雰囲気盛り上げてくださいました。

講演会は、市内にお住まいの渡邊守順(わたなべ しゅじゅん)先生のご講演をいただきました。

私たちの地区のまちづくり協議会の愛称が「万葉のまち市辺」と昨年の市辺地区文化祭と秋祭りの会場で参加された人に投票していただきました。その結果、三役会、文化部会で、なぜ「私たちのまちが万葉のまち」なのか古くから住んでいる人、この地域に移り住んだ人たちに、古くから豪族や皇族に関係のあった地域であり、近世の文豪、島崎藤村のラブロマンスの係わりなど少しでも多くの人々に知っていただきたいとの思いから渡邊先生にお願いしました。

当地域は、天智天皇御代船岡山を含む一帯が蒲生野と呼ばれ遊獵の地として5月5日に男性は狩獵を女性は薬草狩りをされたのが起源と言われています。

市辺押磐皇子御陵があり履中天皇の第一皇子で顕宗・仁賢天皇の父、市辺押磐皇子を葬ったとされる御陵などがあります。これらを踏まえて渡邊先生から地域周辺の歴史の今と昔など史上豊かにお話いただきました。

少しでも多くの人々に私たちの地域のすばらしさを知っていただき、歴史に触れていただけたのではと思います。お忙しい中ご参加くださいました皆様ありがとうございました。

事業部会長・文化グループ長 村田利子

災害に強い 防災のまちづくりをめざして！

1月19日 視察研修《防災体験》
京都市市民防災センター

今年度は、ちょうど「防災とボランティアの週間」中の1月19日に「防災の意識を高めましょう」という目的で、視察研修会を催しました。25名の方々に参加を頂き、京都市市民防災センターで、大地震に備えた家具の検討防止講座をはじめ、震度7の横揺れや、消火器の取扱説明と初期消火、立ち込める煙からの避難、風速30メートルを超える強風など数々のシミュレーションを駆使した、見る・聴く・触れる・感じる・防災体験をしてきました。

私たちの住む市辺地区におきましては、近年幸いにも痛手を被るような自然災害に直面する事がなく、日々の生活の中ではどうしても危機意識が乏しいように思われます。

万が一に備えて、非常持ち出し袋の配備や隣近所への声掛けなど身近な事から気をつけるよう心掛けたいものです。

今回の研修で学んだ事をもとに地域の皆さんを交えて防災意識の啓発のきっかけにして行ければよいかと思えます。

研修部長 森 文雄

参加者からは次のような感想をいただきました！

『地震が起こったら大変な事になると3Dでの体験で改めて思った。この体験を持ち帰って地域の方にどのように伝えたいのだろうか。何か機会があれば報告し、体験者を増やす努力をしたい。』

『消火器の使用もいざとなるとなかなか上手に出来ない。地域で消火器の体験も出来るようにしたい。』

『以前は運動会で消火体験を行っていた。来年度から復活させるなどして、できるだけ多くの地域の方に体験してもらえるようにしてはどうか？』



消火器の的確な使い方を学ぶ



風速30m！強風体験

災害は忘れたころにやってくる。

地震、台風、火災...

かけがいのない暮らしをおびやかす、災害の恐ろしさを忘れないために。

そして万一災害が起こったときに、被害を最小限に抑えるために。

日頃の訓練や心構え、備えが肝心です。

桜の開花も間近になってまいりました今日。市辺地区内の皆様方益々ご健勝の事と拝察申し上げます。

防災とは地区民の皆様方の安心、安全な「まちづくり」を目指して、災害対応、事故防止、防犯の三点を重点目標に掲げ、地区住民の皆様方の一層の協力をお願いし、初期の目標達成のためのまちづくり活動を進めたいと考えています。

幸いに市辺地区は大きな災害もなく平然と暮らしていますが、12年前の阪神淡路大震災を思い起こすならば、大変なことであったと聞いております。あの教訓を考えて今後は地区民一人ひとりが手を合わせ協力し合って災害時の迅速な対応と事故防止をしなければなりません。災害が起こってから対応を考えずに日頃からその心構えと備えしておきましょう。

以前に市役所から全戸配布された災害用の用具の活用方法を今一度、点検しておきましょう。

防災グループとして、以上のことを踏まえて平成20年度事業に組み入れ進めていきたいと考えています。皆さまのご意見やアイデア等をお聞かせください。

事業部・防災グループ長 向井喜蔵

いざという時のために ご家庭に非常持出品を 備えましょう

各家庭で共通する持ち出し品には、携帯ラジオ、懐中電灯、ヘルメット(防災頭巾)、食料(乾パン・缶詰など)、水、衣類、生活用品(ライター、軍手、ビニールシート、ウェットティッシュなど)、救急薬品、常備薬、筆記具、預金通帳、健康保険証、現金などがあります。

市辺地区発

地球にやさしい

まちづくりに向けて！

私たちの生活が便利になり、ほしいものが何でも近くで調達でき、しかも安いとなれば大量の買い物をしてしまいます。その結果、自動車で行き、買った物は粗末に扱って使い捨てられ、ゴミは増える一方となっています。また、家庭でなくてはならない電気・水道・ガス・水道も贅沢な使い方に慣れてしまい、贅沢な使い方に慣れてしまい、節約することが忘れられているように思います。

私たちは、最近まで環境というと身の回りをきれいに清掃することを主として活動してきました。しかし、これまで私たちが大量消費の生活を求め続けた結果、大切な地球の環境に問題がでてきています。

これが地球温暖化です。ということは、地球温暖化の原因は、私たち一人ひとりにあり、温暖化を防止するのは、私たち一人間の責任なのです

私たちは今後地球にやさしい生活態度をとっていかねばなりません。このため、環境部会として

1. ゴミの分別による生ゴミの堆肥化
2. 廃食油の燃料化や石けん作り
3. 化石燃料の削減
4. 里山や川の保全と活用
5. 休耕田の活用

といったことを目標に次年度も引き続き活動をしていきたいと考えています。

これらの活動は地区住民の皆さんが主役なのです。

私たちが住む市辺から地球にやさしいまちづくりを発信したいと思います。

事業部会・環境グループ長 榎木貞夫

生ゴミ堆肥化運動視察 ―蒲生岡本町―

3月2日(日)環境グループでは、ごみ減量化の具体的な取り組みをされている市内蒲生岡本町の『生ゴミ堆肥化運動』の視察を行いました。同町では、平成16年9月から、家庭から出る生ゴミを可燃ゴミとして出すことを禁じ、町ぐるみで生ゴミの堆肥化を行い、堆肥としてリサイクルすることでごみ減量化と資源循環型社会の実現を目指しておられます。今後市辺地区の「環境のまちづくり」を進めるための一つの足掛かりになりました。



生ごみ堆肥化施設



生ゴミ投入時



バイオ分解で
堆肥化される。

東近江市内まちづくり協議会交流会へ参加



2月17日(日)てんびんの里文化学習センターで「市民と行政の協働で地域課題の解決をめざして」をテーマに交流会を開催し、市内14地区から約150名のまち協関係者が参加しました。

記念講演やまち協活動事例発表に続いて、参加者同士のフリートークによる交流会があり、各まち協における事例や課題、夢等を話し合いました。

どの地区も自主財源や人材の確保、各種団体等との連携など、様々な課題に取り組み、進めておられると感じました。

市辺地区まち協でも人材を必要としています。

ひとりでも多くの参加を期待しています。

まち協副会長 松下広揮

3/9 市辺馳駆内 再発見歩こう会



小春日和でポカポカ陽気！

12km、73人がまちあるき！



地域の人達が仲良く集える

万葉のまち市辺を めざして

“良き人等 ウォークしている 春霞”

『再発見 歩こう会』も好天に恵まれ、多くの皆様に参加していただきありがとうございました。一人で歩いているは何も感じませんが、大勢で歩くと市辺地区の一体感を感じます。穏やかで満ち足りた生活を送るためには地域の方達との一体感が重要だと思えます。

本年度のまち協の行事もすべて終了しました。大勢の人に参加していただき、楽しいひと時を過ごしていただけたと思えます。また、スタッフにおかれましては、色々ご苦労さまでした。「人の喜ぶ顔を見て喜ぶ」そんな気持ちでご協力いただいたことと思えます。

人にはそれぞれ特技や趣味があります。それを発揮していただくのが「まちづくり協議会」の場ではないかと思えます、色々なイベントに参加していく中で「こんな事をしたい」「あんな事をしたい」という気持ちをみんなの前でぶちまけて多くの賛同者と共に実行していく、そんな芽も芽生えてきたように思えます。

新年度がスタートします。一段とグレードアップしたまちづくり協議会の活動が始まります。

多くの方のご参加をお願いします。

市辺地区まち協会長 平尾徳雄

3月9日(日)晴天のもと、「再発見歩こう会」が開催されました。

小さな子どもさんを連れてご家族をはじめ、沢山の方に参加頂きました。

10時に市辺公民館を出発し、お昼頃には、中間地点の布施公園にて、うどんとおにぎりで腹ごしらえをして頂き、3時頃には全ての方がゴールされました。

参加して下さった方からは、「久しぶりに良い運動ができた。」と喜んでいただきました。

ところで、スポーツの目的は単に「運動不足の解消」や「健康・体力づくり」だけでなく「仲間との交流」「家族とのコミュニケーション」「自然とのふれあい」など多岐にわたり、これらを通じて私たちの「こころ」と「からだ」の健全な発達に寄与するものであります。

日々の生活の中で、仲間あるいは地域で、スポーツを楽しみ、生涯にわたり健康で明るい活力に満ちた生活を送るため「自ら参加・実践する生涯スポーツ」にと、一人でも多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

尚、今年の運動会は会場を変え、初めて船岡中学校のグラウンドで開催したところ、天候にも恵まれ、皆様のご協力によりまして、無事大成功に終わらせて頂くことが出来ました。今後ともまちづくり協議会、その他の行事共々、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。有難うございました。

事業部副部会長・体育グループ長 村田武司



編集後記

まちづくり協議会が発足し一年が経過しました。右往左往しながら各部会活動に取組みようやく方向性を見出せてきた様に思えます。

地域の皆様のご協力に感謝致します。

次年度以降、更なるまち協の発展を目指し委員全員が一丸となって盛り上げて行く所存です。

今後とも、ご協力の程宜しくお願い致します。

『地域の皆様の協力』こそが まち協の肥やしです…

(広報部会)

お悔やみ

去る3月11日、市辺公民館の大澤義一館長が逝去されました。公民館長として地域に広くに貢献され、さらに市辺地区まち協の設立にあたっては多大なるご尽力をいただきました。

謹んでお悔やみ申し上げますとともに心よりご冥福をお祈りいたします。